

PI第2フェイズ実施結果報告

皆様からいただいた声

内閣府沖縄総合事務局

パブリックインボルブメント(第2フェイズ)の結果①

1. 第1フェイズでいただいた声を踏まえた「ありたい姿」について(P4~6)

- 沖縄らしい文化や自然を残しつつ発展していきたいという声が得られたほか、高齢者や子どものためにもそれが移動手段に困らない社会であってほしいとの声がありました。
- 住民、観光客双方から、便利で豊かな観光地としての沖縄であり続けてほしいとの声がありました。
- 沖縄経済の発展のためにも、社会一体となって交通を再考する必要があるとの声がありました。

2. 「ありたい姿」を実現するための方向性(P7~10)

- 現状の自家用車中心の生活に満足しているという声や、現状を変えることに対する現実性を懸念する声、変化を起こすためには行政によるインフラ整備等を先行させるべきというも一定数あつた一方、現状のライフスタイルに課題を感じ、当事者意識を持って自ら変えていくべきとの声や、企業・行政も含めて一体となり変革すべきとの声が多く挙げられました。

3. ライフスタイルを変えていくためのアクションについて(P11~16)

- 通勤について、公共交通機関を使って通勤してみたいとの声や、時差出勤やテレワークを活用したいとの声が挙げられた一方、現時点ではそのような環境が整っていないため、企業等にも制度の導入を求めたいとの意見が挙げられました。
- 通学について、自家用車以外での通学を行いたい(行わせたい)との声や、公共交通機関に触れる機会を増やすことで子どもの意識を変えたいとの声がありました。また、行政からも子どもに対し公共交通に関する教育、通学支援を行ってほしいとの声が挙げられました。
- 観光について、利用しやすい環境であればレンタカー以外での観光もしてみたいとの声が挙げられました。また、レンタカー以外の交通手段に関する情報を積極的に発信してほしいとの声もありました。
- モノレール・バス等の公共交通機関について、休みの日に乗ってみるなど、無理のない範囲で触れる機会を設けたいとの声が挙げられました。また、利用してみたいと思うきっかけを行政や交通事業者側から提供してはどうかとの意見もありました。
- まちづくりについては、住民自らまちや交通について考える機会の必要性を感じるとの声がありました。また、行政等に対しても現在の自家用車前提のまちづくりから脱却し、歩行者や自転車などに配慮した道路づくり、まちの拠点づくりを求める声が多く挙げられました。

パブリックインボルブメント(第2フェイズ)の結果②

4. 交通サービスに期待するアクションについて(P17~23)

- 今後ライフスタイルを転換し、自家用車以外の交通手段を活用するにあたっては、交通サービスの充実を期待する声が多く挙げられました。
- 具体的には、公共交通機関のネットワークの維持・充実や定時性や分かりやすさの向上、通勤・通学時間帯にフォーカスしたダイヤの見直し、決済手段の多様化、交通拠点の整備などによって、より使いやすい交通手段となることを期待する声が挙げられました。
- その他、ライドシェアや地域内輸送サービスなど、新しい交通手段によって既存の公共交通を補完することを期待する声もありました。

1. 第1フェイズでいただいた声を踏まえた「ありたい姿」について①

○沖縄らしさの残る豊かなくらし・街の実現

受け継いできた沖縄らしさの維持・発展

- ✓ 各地域の独特な文化が感じられるものであってほしい。先ずは各々がライフスタイルの中で考え、実践することは大事。移動手段が充実していくことで、生活改善、観光・産業発展、魅力向上につながりより良い沖縄へとシフトしていくと考える
- ✓ 環境に良い行動をしたい
- ✓ 文化だけではなく、きれいな自然を継続して残していきたい
- ✓ 地球のつながりが浅くなっているので心配。震災を機に特に地域の助け合いが大事だと思った
- ✓ 多様性を認めて誰もが移動しやすい沖縄になって欲しい
- ✓ 効率化されつつ自然を残し、沖縄の特色を表現できるような街づくり
- ✓ 良い沖縄らしさは維持したいが、沖縄らしくないことを過度に排除することもしないようにしたい
- ✓ 車中心の町ではなく、人を中心の町にしたい。県民は車に縛られていることに気づいてほしい
- ✓ 沖縄に移住された方にとって、沖縄の行事の理解がなく寂しい声を聞くこともあり、沖縄の人もどうしたら移住者と相互扶助ができるかを考える時なのでしょうか

生活の質の向上

- ✓ 子供が大きくなった時に1人で動ける状況になっていてほしい
- ✓ 運転できなくても移動しやすくなってほしい
- ✓ 高齢者にも使いやすい公共交通を
- ✓ 高齢者の送迎、買い物サービスを通じて雇用と交流を生みたい
- ✓ 10年後、20年後の超高齢化・技術発展を見据えた移動手段を先取りで計画し、技術者を誘導するような計画を立ててほしい。歩行者と車を分離して、渋滞緩和につなげてほしい。個人が車を持つ必要がなくなる社会
- ✓ 高齢者や住民、観光客にも優しい、車に頼らなくてもいい社会を早く実現してほしいです
- ✓ 免許を返納しているが、徒歩などでマイペースに自分の動ける範囲で生活できれば
- ✓ 貧しい人への対応が必要。一番の課題は交通の早期改善だと思う。今すぐは難しくても次の世代に向けてしっかりと変えていくべき
- ✓ 渋滞、交通事故、飲酒運転撲滅のためにも公共交通の充実が必要と考える

1. 第1フェイズでいただいた声を踏まえた「ありたい姿」について②

○選ばれる持続可能な観光地

誰もが訪れたくなる沖縄

- ✓ 観光客がレンタカーに乗るが、インバウンドが事故起こすので公共交通が使えるようになってほしい。また、経済のためにもアクセスを良くしてほしい。そうすればみんないろんな所に行ける
- ✓ サービス面で観光客にわかりやすくなるように。外国人からの目線を考える
- ✓ 車がないと色々な場所に行きづらいイメージがあるので、車に乗れない人も回遊しやすい観光地に
- ✓ インバウンドや若者の自動車離れが顕著と見聞きしている。今後10年～20年後に観光地として競争力を確保するためには車に頼らない方法を早く構築する必要がある
- ✓ 交通手段に限定されることのない沖縄観光が実現できれば
- ✓ 観光客としては、「沖縄らしさ」に触れたくて訪れました。沖縄らしさとは綺麗な海、ゆったりした時間の流れです。しかし、車を運転しながら景色を見ることはできないし、運転していても道の流れが悪いところが多く、なかなか思いをしました。でも、地元の方が心から沖縄の暮らしに満足していれば、観光客としても何か感じるものがあるだろうし、また来たいと思うのだと思います。沖縄の暮らしが、幸福度高いものであるといいなと願っています

地域内消費の向上

- ✓ お酒を飲みながら公共交通機関で観光したい。これができたら高くても乗る人はいると思う
- ✓ 環境への負荷を低減するため、オーバーツーリズムの解消、量から質への転換、富裕層向けの観光誘致を望みます

1. 第1フェイズでいただいた声を踏まえた「ありたい姿」について③

○沖縄経済の発展・生産性向上

時間損失が少なく、事業効率が高い沖縄

- ✓ 経済の中心に観光を据える据えない問わず、車の利用が少なくてやつていいけるような環境があることが未来には必要
- ✓ 沖縄の経済や生活水準が停滞している原因は、交通に要する時間が極めて長いことにあると考える
- ✓ 渋滞による機会損失やトラックなどの残業規制を考えると、公共交通機関が充実して車の必要性を薄くすることが必要
- ✓ この機会から、労働生産性向上を図る絶好の機会とすべき。条例など法的拘束力を最大限活用し、現状の沖縄におけるライフスタイルを激変させ、労働生産性を向上させることで県民所得を向上させる必要がある
- ✓ 経済活動(仕事)と観光、生活が一体的に共有する交通政策を目指すのが良いと考えます
- ✓ 沖縄経済の発展・生産性向上については、県内企業の発展、支援や県外企業の誘致などによって、安定的に働く基盤作りも必要では無いか
- ✓ 夏休みや冬休みなど、学校の長期休み、さらにはGWやSWなどを、自治体単位で設定することで渋滞緩和、感染症対策も可能。さらには、宿泊施設、観光各所、テーマパーク側など受け入れ先の繁忙対策、雇用の平準化にも寄与できると考えます
- ✓ 那覇は若い人も多くポテンシャルが大きいので、社会インフラに投資してもメリットは大きい。いろんな交通手段を考えてくれば
- ✓ バス事業者も人手不足であるし、それは仕事に見合う給料じゃないからではないか。みんなが働きたくなるような魅力的な仕事になれるようにテコ入れしたほうがよい
- ✓ 沖縄経済の発展・生産性向上の項目において、企業が主体となって取り組む事項しかない。もっと抜本的改革を求める

2. 「ありたい姿」を実現していくための方向性①

○「A:現在のライフスタイル、交通環境を維持する」を支持する声

現状に満足、維持したいとの声

- ✓ 現状に満足している
- ✓ ガラッと変わるのは嫌だと感じた
- ✓ 免許を取って運転したいが、お金が心配なので送迎だと助かる
- ✓ 車の送迎が安心。公共交通は治安が不安
- ✓ 毎日残業で疲弊している。東京レベルで電車網が発達しない限り、自家用車で通勤しないと睡眠時間が確保できない
- ✓ 沖縄観光はレンタカーのイメージが強い。多少の渋滞はあるが、飲酒もしないため公共交通があっても使わないと思う
- ✓ 観光時の荷物等も考慮するとやはりレンタカーが便利と感じてしまう

現状を変えることの現実性が低いとの声

- ✓ 公共交通機関を活用する際に、バスの本数が少ないと感じる(タクシーは値段が高すぎて活用できない。選択肢にも上がらない)。それに加えて、観光客にバス利用を促すことで利用者が増になる事で、時間通りに来ないから又自家用車に戻る等負の連鎖が起きる事が想定できる
- ✓ 沖縄全体がCのように動けば素晴らしいが、各々の組織と個人にとってのメリットがなければ実現は難しいように思える
- ✓ 通勤や買い物の移動手段として自家用車は必須アイテムであり、現代社会において自家用車を中心のライフスタイルからの転換は現実的ではない
- ✓ 理想を言うのは簡単だがお金に余裕がないと変えられない
- ✓ 理解はできるが、環境が整わない限り変えようを変えられないと考えるため
- ✓ ありたい姿は理解でき、共感もできるが、自身や家族のライフスタイルを考えると、実践は難しい。ありたい姿の生活をするには、インフラ整備が必要

その他

- ✓ 個人の意識に任せた結果が現状の交通事情、社会事情なのではないか
- ✓ (Cは)絵に描いた餅。こうありたいと思う姿を強いている風に感じる

2. 「ありたい姿」を実現していくための方向性②

○「B:行政等が公共交通の利用を促進する」を支持する声

現状を変えるためにはまず行政等が主導することべきとの声

- ✓ 行政が動いたほうがよい。公共交通を使うほうがお得になるキャンペーンなどである程度改善するのでは
- ✓ 公共交通に市民の生活をならす。設計するだけではどうにもならない
- ✓ 本当はBが理想だが、少しずつ近づいてほしい
- ✓ ライフスタイルを変えるには交通サービスの利便性向上が必要であり、利便性を向上すれば自然と公共交通を利用したライフスタイルに変化すると考えます。時差通勤等は民間事業者の判断で実施していくため、行政には行政の管理内での改善を求める
- ✓ 個人や企業の需要は多岐にわたると思われる所以、バラバラにアクションを起こしても成果を上げるのは難しいと思うので、結局行政が意見を取り纏めて進めて行くのが効率的だと考える
- ✓ ライフスタイルを変えるには環境の整備が不可欠で、それにはBの行政による利用促進を先行すべきだと考えます
- ✓ 現状の公共交通機関では個人や企業が満足していないことを重く受け止めるべき。Cは行政の甘えです。個人に頼るのではなく個人を誘導しないとダメ
- ✓ 公共交通の利便性の環境向上から先行しないとライフスタイルの変革は継続できない

その他

- ✓ 必要性は理解できるが、どれだけの県民が実際に取り組むのか実現性が不透明のため
- ✓ ライフスタイルは個々による
- ✓ 考え方には共感するが、現実には道路への投資が偏重され、「交通インフラ」は悪化する一方なので
- ✓ 京都のように観光客はレンタカーを使わない(渋滞で使えない)環境づくりが必要。レンタカー数を制限し観光用路線バスを拡充すべきではないか。Cだと県民に負担を強いているだけである。コロナ禍は通勤時も渋滞がなく快適であった

2. 「ありたい姿」を実現していくための方向性③

○「C:皆でライフスタイル自体から変えていく」を支持する声①

ライフスタイルを転換することへの共感の声

- ✓ ライフスタイルを変えなければいけないことには共感
- ✓ 沖縄のライフスタイルを変える時期にきていると考える
- ✓ ライフスタイルが変われば、買い物など生活が近所で完結するまちづくりが出来るし、環境への負荷も減る。交通手段やインフラ整備へのコストも抑制できる
- ✓ 公共交通衰退の要因はすべて自分たちの車中心のライフスタイルにあるため、ライフスタイルを変えなければこの状況は改善しない
- ✓ A,Bの選択肢だと、自家用車中心での生活スタイルのまま変わらないため、状況は改善しないと考える
- ✓ 現状の生活スタイルが合わなくなってきたことを実感している
- ✓ バスの利用者が増えたら車の台数が減り、渋滞は緩和され、バスの本数は増え便利になると思うため、車依存からライフスタイルを変えた方がいい
- ✓ 今までの生活が「持続可能な社会」を目的に出来上がったものばかりではありません。だからこそ、新しいライフスタイルや、サービス、制度が必要なのだと考えています
- ✓ ひとりひとりが行動すれば現在よりは確実に状況が良くなると思ったため。また、実際に、晴れの日より雨の日の方が交通渋滞が多くなることからライフスタイルとの関係が深いのだと感じたため
- ✓ 現状の生活スタイルでは変化しない。自己中心ではなく皆で行動を起こすべき
- ✓ 公共交通の利用や自転車・歩行は実践できると思う
- ✓ 自分はフレックス勤務にこだわって職場を探している。ライフスタイルの転換に共感する
- ✓ 自動車中心のライフスタイルは効率が悪い
- ✓ 自分たちも変化すべき。「そこまでも車なの？」という沖縄県民の意識を変えたい
- ✓ バスに乗ったことがないからBの生活が分からず、でもAだと免許返納したときに困るのが分かっている
- ✓ 市の循環バスの存在を知った。近くに車で行くのはやめた方がいい
- ✓ ハード面だけを整備しても、個人の意識が変わらなければよい変化は生まれないとと思う
- ✓ 一人一人の考え方を変えないといけない、自分も含めて、自己中心的だと思うので、そこを国が支援して欲しい

2. 「ありたい姿」を実現していくための方向性④

○「C: 皆でライフスタイル自体から変えていく」を支持する声②

各ステークホルダーの参画が必要との声

- ✓ 市町村や事業者と一緒に変えていけるといい。一気に変えるのは難しい。使える選択肢が多いと良い
- ✓ 一人一人、国全体が協力しないといけないと思う。交通による経済損失はすごいと思う、経済が回ればよいまちづくりができるはず
- ✓ 一人一人の行動が大事。SDGsも意識し、Cを通じて環境負荷を軽減するがよいと思う
- ✓ 行政と民間の間でうまく役割分担ができれば。民間のフットワークの軽さを活用してほしい
- ✓ 個人の意識よりも沖縄県、社会全体で取り組まないと達成できない
- ✓ ひとりひとりのライフスタイルを変えていくためには、社会皆の取り組みが必要だと思うため

自分の住むまちに対して当事者意識を持ちたいとの声

- ✓ 自分たちの住んでいる街だから
- ✓ その地域に住んでいる自分達だからこそ今の状態を変えていく責任があると思う
- ✓ 1人1人が考えて変えるべき。意識付けが大事。Aは悲しい。Bもちょっと他力本願すぎると思う
- ✓ 今そのまま座して待つ状態では、効率化が測れないし、一方的な働きかけだけでは何も変わってこなかったから
- ✓ BとCが現実的。Aは自己中心的すぎる
- ✓ 公共によるインフラ整備だけでなく、それを使う人の意識が大事
- ✓ Cが大切。行政がやると安くて当然になってしまう。社会を持続可能にしていくためにこれだけお金が必要とか示していくことが重要

その他

- ✓ Cが最も望ましいが、バス会社も統合や減便等努力して現状維持となっているため、利便性向上はどのようにやるのか。この利便性向上は都心部に限られた話に見える
- ✓ 自分の考えはCではあるが、前からやっている気がする

3. ライフスタイルを変えていくためのアクションについて①

【通勤を変えていく取組に関する声①】

○自身のアクション

働き方・通勤手段

- ✓ 公共交通や自転車、徒歩などの通勤の実践ならできそう
- ✓ すでに自転車通勤を行っている。子供にも自転車通勤を行わせている
- ✓ 通勤を変えるのは希望する。時差出勤OKなら公共交通を使いたい
- ✓ リモートならば時間に縛られなくなるので良い。その場にいなくても済む
- ✓ 時差出勤できるといい。子供のお迎えに間に合わない
- ✓ フレックスやテレワークの制度があれば利用したい
- ✓ 時差通勤を実践している

○企業・行政に期待するアクション

働き方

- ✓ 時差出勤は企業がやらないとできないので、企業から動いてほしい
- ✓ 時差出勤ができるようになってくれたら、那覇への通勤も楽になると思う
- ✓ 在宅勤務やフレックスタイム導入してほしい、駐車場代の通勤手当が欲しい
- ✓ フレックス制度のある職場になるといい、仕事を諦める人も減るのではないか
- ✓ サテライトなど働き方を自由に選べるようにするとよい
- ✓ DXを活用しテレワークを企業に行政が推進する、行政からテレワーク等を行うことなど働き方の転換も必要である
- ✓ 働き方が大事。公共交通が変わると企業も変わらないと
- ✓ 企業が歩くと楽しくなるような、行動変容を起こすような取組があればいいのではないか。自動車から徒歩へ選択できるようなメリットや健康につながる取組に給料などのインセンティブを
- ✓ ライフスタイルを変えるためにも、企業の働き方改革、勤務制度の柔軟性と託児所、保育所、学童の低年齢の子供がしっかり預けられる政策とマッチさせることが必要と思う

通勤手段

- ✓ 自動車を利用しないことに対する手当や優遇などのメリットがあれば会社としても真剣に取り組むのではないでしようか
- ✓ 車がないと就職先が限定される。車社会の利便性向上のためには、交通政策を踏まえた企業経営を入れてもらう必要があると考えます

3. ライフスタイルを変えていくためのアクションについて②

【通勤を変えていく取組に関する声②】

○自身のアクション

公共交通等で通学をする、させる

- ✓ 高校生になれば子供たちもバスに乗るようにさせたい
- ✓ 送迎は慣習化してしまっているので、通学は自転車で頑張るだけ頑張る。リモートでもいいのでは
- ✓ 子供も単独で行き帰りしてほしい

普段の生活で公共交通を意識する

- ✓ 子供だけでバスで出かけさせてみたい。非日常感を楽しませる
- ✓ 公園・イベント・人が集まる場所など、子供にバスを用いて出かけさせたい。ルールやマナーといった社会性が身につくと思う

○企業・行政に期待するアクション

通学支援

- ✓ 学校がスクールバスを導入するなどもっと送迎すれば、渋滞は緩和される
- ✓ 高校にバス通学しているので、手当が出ると良い
- ✓ 通学の送迎をサポートできるような交通体系が必要ではないか。子供の時から車で送迎されているのが当たり前で育つと、大人になった時に公共交通機関を使うという思考にならない
- ✓ 子育てしやすくしてほしい。住むまちの魅力を小中学生に伝えてほしい
- ✓ 通学費用支援はやった方が良いと思うが、近くの地域の学校に行くようにしてもよいと思う

公共交通リテラシーの向上、教育

- ✓ 子供にも関心を持ってもらい、参加することが大切
- ✓ バス通学のため初めて乗るとき最初は難しかったので、乗り方を教えてほしい
- ✓ 中学生ぐらいのときから公共交通利用、社会参画をさせるべき、最も教育が大事
- ✓ 子供の頃から教育が必要。沖縄県の課題にはどんなものがあるか考える必要がある

学びの在り方の転換

- ✓ DXを活用しオンラインでの授業を行政が推進する、行政からテレワーク等を行うことなど学び方の転換も必要である

3. ライフスタイルを変えていくためのアクションについて③

【観光を変えていく取組に関する声】

○自身のアクション

レンタカー以外の手段での観光

- ✓ 観光客のレンタカー巡りは問題。観光のスタイルも変えていく必要
- ✓ 那覇はレンタカーなしの観光できる。実際に歩くことで周辺の知らない観光資源を知ることができる
- ✓ 自分はレンタカーも使うが、公共交通を使いたい人のために公共交通も増やしてもらいたい
- ✓ 公共交通で観光できるなら便利だと思う
- ✓ 観光地への便利な交通機関があれば使いたい
- ✓ 車で行けないところに別手段で行けるといい
- ✓ 観光客がバスを使えば地域の足を守ることにもつながると思う

○企業・行政に期待するアクション

情報発信

- ✓ レンタカー以外の交通手段を周知する必要があると思う。旅行は事前に計画するものなので、沖縄に着いてからだけでなく、各地の電車内の吊広告など全国ネットで発信すると良い
- ✓ 県外には情報が伝わってこないので、交通手段に関する情報発信がもっとあれば使ってみたいと思う
- ✓ 観光客のためにバス・モノレールの案内をもっとわかりやすくしてほしい

その他観光に関連するサービス

- ✓ レンタカーを使わなくても観光地を回れる仕組みがあると良い
- ✓ レンタカーを使わない場合は、荷物が多さがネックになる。空港からホテルまでの荷物運搬などのサービスが充実してほしい
- ✓ 魅力ある沖縄観光を持続させるためには、テクノロジーを活用した快適な交通手段、インフラの構築が必要と考える

3. ライフスタイルを変えていくためのアクションについて④

【モノレール・バスへのイメージを変えていく取組に関する声】

○自身のアクション

日常生活における公共交通の利用

- ✓ 土日の時間があるときはバス乗ってもいい
- ✓ お出かけには自家用車を使っているが、何日かのうち1日くらいはバスを使ってのんびり移動したい
- ✓ 市内循環バスへ乗ってみる、体験してみる
- ✓ バスは以前に比べて時刻通りに来るようになったと感じるので、皆一度乗ってみるべき
- ✓ 子供はバスが好き。休みの日などは一緒に乗って楽しみたい
- ✓ 酒を飲んだ後に乗ってみたい
- ✓ (自分は普段から公共交通を使うので)周囲の人に公共交通の便利さを伝えていきたい

○企業・行政に期待するアクション

公共交通に触れる機会の提供

- ✓ 交換交通の乗り方など教えないといダメ。だから沖縄の人は歩かない
- ✓ 「バスに乗る日」など設定して、公共交通を体感するようにすると良いと思う
- ✓ 公共機関を利用したくなる仕組みづくりが必要(たとえば金銭的なインセンティブ付与など)

公共交通のイメージの転換

- ✓ 乗り物のコンテンツ化
- ✓ EVやハイブリッドに変えるなども環境に良い
- ✓ 水/土(日)で無料運転をして需要が上がった例がある(佐賀、岡山)。ほかの事例を参考に変えていくといいが、運転手の負担を考えると区間的にするのがいい

3. ライフスタイルを変えていくためのアクションについて⑤

【まちづくりを変えていく取組に関する声①】

○自身のアクション

まちづくりワークショップなど、市民が考える取組に参加したいという声

- ✓ 「まちづくりWSに参加してみる」というのはできそう
- ✓ 持続可能な社会づくりと、市民の幸福な生活の両立は難しい課題ではあるが、一市民として向き合うべきことだと思う
- ✓ もっとまちづくりに参画できる機会や案内を充実させてほしい もっと意見を言いたいし話し合いたい
- ✓ もっと具体的なメリットを提示できたら企業や私たちのアクションも変化するのではないか
- ✓ もっと楽しい参加型イベントもあると実感しやすいのではないか
- ✓ 一人一人が交通に関する問題について考え、改善策を見つけるためにその場を提供してみてもいいと思う
- ✓ 交通渋滞がどれだけの損失になるのか、具体的に思い描けるうように。また目指す社会について、学生、社会人、お年寄り、障がい者等の目線で描いてみたら自分に置き換えやすいし、アクションを起こしやすいのではないか。人は自分にメリットがないと動かないので

徒歩・自転車等を利用したいという声

- ✓ 環境を大事にする行動を一人一人がとれば、歩くことにもつながるのではないか
- ✓ 歩ける範囲は徒歩による移動を
- ✓ この前運動もかねて、祖母の家まで子供と40分歩いた。これからもそんなこともしていきたい
- ✓ 那覇市内なら自転車も使える

○企業・行政に期待するアクション

まちの拠点形成に関する声

- ✓ 公共交通の便利なところに会社を集めると良い
- ✓ 子育てしやすいまちにしてほしい
- ✓ お年寄りが集まる場所や床屋などの拠点が欲しい
- ✓ なんでもそろう場所があって欲しい。そうすればそこにバスが来るようになるのでそこに行けばなんとかなるということで人が集まる。保育園とスーパーがあれば、朝預けて自分は仕事に行き、帰りによって買い物もできる
- ✓ 子供と一緒にバスで行って遊べる場所があるといい
- ✓ 図書館など街が集約していると住みやすいのではないか

3. ライフスタイルを変えていくためのアクションについて⑥

【まちづくりを変えていく取組に関する声②】

○企業・行政に期待するアクション

徒步・自転車にやさしいまちづくり

- ✓ 自転車で行けるような距離でも、自転車で通れる道がない。歩道・自転車道を整備してほしい
- ✓ 健康維持のために徒步・自転車の利用しやすい環境を作るべき
- ✓ 車社会なので道路と歩行者とを区別してほしい
- ✓ 自転車道をもっと増やすと良い
- ✓ しまなみ海道のように自転車専用道を作ったらしい。散歩にも使える
- ✓ 商店街などお店が立ち並ぶような、歩きたくなるような町づくり

まちの機能・環境

- ✓ 商業施設、オフィスビル、ホテルなどを集積、高層化を推進し、そこに乗り入れる公共交通機関を整備し、個人の乗り入れを制限するなど政策や税制優遇など環境を整えることで、社会インフラを再構築し、郊外は沖縄の原風景が残るようなデザインとなることを望みます
- ✓ 沖縄は、もう少し景観条例を強化してもいいと思う
- ✓ まずは車(=移動)を極力不要にする取り組みが必要。可能な限りオンラインで対応し外出不要にする(例:行政の申請手続き等のオンライン化拡大)
- ✓ 環境負荷低減を目指してほしい

4. 交通サービスに期待するアクションに関する声①

○住民・観光客も使いやすい交通ネットワークに関する声①

生活に資する交通網の維持・充実

- ✓ 行きたいところに公共交通で行けるように
- ✓ 多様な移動手段がシームレスに利用できる交通環境の実現を目指してほしい
- ✓ 西海岸側と比較し、東海岸側の交通インフラが未整備である。交通インフラの差が地域発展の差に直結しているものと考える
- ✓ 幹線道路移動はバスが望ましいが、細かいルートはコンビニ・スーパー間を結ぶルートがあると本当に助かる
- ✓ バス停までが遠いので近くにほしい
- ✓ なんじい公園にバス停を置いてほしい
- ✓ バス通勤ができないので職場の近くにバス停がほしい
- ✓ 廃線になった地域は代わりのバスが欲しい
- ✓ モノレールの路線が充実してほしい
- ✓ モノレールを浦添の中心部まで通してほしい。モノレールは雨に濡れないで、駅があれば便利
- ✓ モノレールが58号線上に空港から名護市まで敷設されれば渋滞が緩和されるのでは
- ✓ 交通網の再編はしていると感じるし、2024年問題と運転手不足を考えると今ある中で利便性を高めるということだろう

観光に資する交通網の維持・充実

- ✓ 観光地を巡れるトロリーバス、センターへの送迎があればいいと思う
- ✓ 観光地へのバスやお得な乗車券があるといい
- ✓ 観光用のコミュバスがあってもいいはず
- ✓ 空港と本島内主要観光場所との無料シャトルを増やすべき
- ✓ ゆいレールは定時性も高いので、アメリカンヴィレッジまで延ばせば酒も飲めるし乗客は増えると思う
- ✓ 現状車での観光がメインであるが、行った先の観光地にバス停があれば $+ \alpha$ での観光が可能だと思う
- ✓ 鉄軌道導入ができないのであれば、ハワイのように主要な観光地を回る無料(旅行商品購入時など限定)の循環バスを回していく必要性がある

4. 交通サービスに期待するアクションに関する声②

○住民・観光客も使いやすい交通ネットワークに関する声②

乗り継ぎ・接続の改善

- ✓ バスの連携が良くないので、乗り継ぎがうまくいけばみんな使うと思う
- ✓ 乗り継ぎ周りが一番大事。もっとスムーズならいいのに。乗り継ぎさえよければもっと使いたい
- ✓ 相互乗り入れやすくすると便利
- ✓ 乗り継ぎ割引が欲しい。那覇からバス乗り継ぎで来られるのに
- ✓ (今は周囲の人に送迎してもらっているが)乗り継ぎ環境が改善されれば友達の都合を気にしなくて済み、より外出できる

ダイヤ

- ✓ 1時間に1本のバスを、30分間隔に増やす
- ✓ バス会社はつらいが増便してほしい。うまくできれば儲かるのは
- ✓ バスで来ているが人手不足で便数が減って待ち時間が長いので増やしてほしい
- ✓ バスはもっとコンパクトでいいから本数を増やしてほしい

運賃

- ✓ 公共交通で安く移動したい
- ✓ 免許・車を持たない世代のためにも料金を下げるといやすくなる
- ✓ バス代も路線によって違うのですべて一緒になるべき
- ✓ 毎日移動が多く、町の中で360~370円するため安くなると嬉しい
- ✓ 学生にはバスを安くした方がいい
- ✓ 免許ない人でもすぐ移動できるような交通が欲しい。バス、タクシーを安くして乗りやすくしてほしい
- ✓ 補助も必要だけど、高くてもいい。将来に残していくために投資をするのが大切

4. 交通サービスに期待するアクションに関する声③

○住民・観光客も使いやすい交通ネットワークに関する声③

定期券

- ✓ 今はバスが4社あるが、合同で定期使えるとよい
- ✓ 定期の充実
- ✓ バス・定期券を利用した形が良い。定期券でタクシー1割引きなどメリットがあると利用が増えるので

交通結節点の整備

- ✓ 鉄道における駅のようなイメージで、各地域にバス利用の拠点として道の駅のような施設を整備し、自転車や自家用車からの乗り換えを促進したり、商店や飲食店、観光拠点といった機能を持たせる事で、公共交通の利用を推進しつつ、地域のさらなる活性化につながるものと期待します
- ✓ モノレール駅を中心に街をつくる
- ✓ モノレールと店が直結してほしい
- ✓ 公共交通機関と商業施設等を結ぶ手段があるといい
- ✓ 名古屋などのバスターミナルは中央分離帯にあって妨げにならないので便利だと思う

決済手段

- ✓ バスの決済手段は多様化してほしい、観光客がいつも時間かかる。おつり出ないバスは変えたほうがよい
- ✓ 電子マネー(Apple pay)が使いやすくなるといい
- ✓ 決済手段が便利になってほしい(交通系ICカードの統一)
- ✓ タッチ決済はやって欲しい。インバウンド(特にヨーロッパ系)のためには必要
- ✓ オキカをSUICAやPASMOと連携したサービスにして欲しい
- ✓ バス運賃をタッチ決済で払えるようにしてほしい。OKICAは沖縄でしか使えない

4. 交通サービスに期待するアクションに関する声④

○バスやモノレールのサービス水準向上に関する声①

バス・モノレールのサービス

- ✓ バスの利便性が高まれば使いたい
- ✓ バス・モノレールのサービス向上
- ✓ ペットをケージで連れていきたい
- ✓ バスは空いているので、小さいサイズにしてもよい
- ✓ 悪天候時や、バスが遅れた際にも待てるようにバス待ちの環境を整えてほしい
- ✓ バス停の環境が場所によって異なる
- ✓ モノレールの車両を増やしてほしい、混雑を緩和してほしい
- ✓ バスは公共化し、県民は無料、観光客は200円などして、公共交通機関の利用を積極的に促すべき
- ✓ 1日乗り放題等のお得なチケットを、窓口に行かなくてもスマホで通年購入・利用できるようにしてはどうか。これまで発売されていたバスの1日乗り放題券は日常使いするには利便性がないものだった印象がある
- ✓ 定員制で乗客全員の着席サービスを提供する通勤利用者向けバスを運行してはどうか。「運賃支払いはキャッシュレス(OKICA等のICカード・クレジットカードタッチ・QR乗車券)のみ」「乗車可能バス停・降車可能バス停を限定する」とすれば、バス停での停車時間も削減できる

通勤・通学に資するサービス

- ✓ 通勤に合わせたダイヤ・ルートの見直し
- ✓ 夕刻だけでも子供が利用しやすいルートを、通学を変えていくルートを求める
- ✓ 授業時間に合わせてバスを出すといいのでは
- ✓ 登校時にバスを使おうとして、バスが来なくて学校を休むことになったことがあったので、通学時のバスが増えてほしい。混んでいるときにバスに乗り切れなくて、次が1時間半後ということもある

4. 交通サービスに期待するアクションに関する声⑤

○バスやモノレールのサービス水準向上に関する声②

案内・情報の充実

- ✓ バスの定時性が低く、待ち時間がロスになっている。使いやすいアプリを
- ✓ アプリがわかりにくいので、電光掲示板などがあればいい
- ✓ 外国人にとってもわかりやすい案内を
- ✓ 案内所があれば価格・時間などを聞きやすい
- ✓ 混雑情報の見える化がされれば移動の選択が増える

定時性

- ✓ バスは時間通りに来なかつたり、アプリケーションが見にくかつたりするなど、車のほうが良いと思ってしまう点がいくつがある。なので、それらを改善して、プラス住民のライフスタイルを変える工夫をする必要があるかなと思った
- ✓ 早めにバスが出ていってしまう。時間が分かれば使う。「いつ来るか」読めることが大切
- ✓ 定時で公共交通が動いていれば問題ないし使うのにと思う
- ✓ バスの定時性が向上し使い勝手がよくなるとよい

○送迎に代わる地域内輸送サービスに関する声

地域内輸送・送迎サービス

- ✓ 送迎サービスで雇用・交流を生む環境へ
- ✓ デイサービスなど高齢者も送迎が必要
- ✓ 空いているときに病院やスーパーなどの送迎してほしい
- ✓ コミュニティバスの充実
- ✓ 地域を循環するバスが欲しい
- ✓ 公共交通機関の改善として、コンビニと提携してコンビニ間を決められた時間で移動を定額でできる手段がほしい
- ✓ ボランティアで免許を持っている方が地域の人を送迎するサービスがあってもいい

4. 交通サービスに期待するアクションに関する声⑥

○新たな技術による交通サービスの維持・向上に関する声①

ライドシェア・カーシェア・相乗り等のサービス

- ✓ ライドシェアなどをもっと増やして欲しい
- ✓ お金ない学生はカーシェアでどうにかならないか。車を持て余している時間があるので、高齢者から借りるなどの仕組みなので有効活用していくいかないか。ライドシェアも1つの策
- ✓ 相乗りもしていくべきだと思うが、ただ知らない人と乗るわけにいかない。知り合い同士で乗れるように公共が介入できれば、車が多くなるのでシェアできるといい。東京と異なり選択肢が少ない、鉄道が通ると北部に行きやすい。船も選択肢かもしれない
- ✓ ライドシェアの安全面は社会が安全になる必要がある
- ✓ 在住の外国人向けのバス乗り合いを充実させてほしい
- ✓ カーシェアを息子に使う、駐車場代がかからないし、車もいらないので便利
- ✓ 広島はレンタサイクルステーションがコンビニなどにあり便利
- ✓ 乗合タクシー、自転車シェアも一つの手段。コミュニティバスを充実させてほしい
- ✓ カーシェアなどがもっと使えるように、乗り捨てできるようにしてほしい
- ✓ 出勤時に自宅とバス停間で利用できるシェアビークルサービスが欲しい
- ✓ ライドシェアを推進すれば、空き時間や行く道中でピックアップしていくことで所得向上や環境活動、レンタカー等の削減にもつながり、旅行者と県民にとってもwin-winの関係になると思います
- ✓ 田舎の住宅地はバスがないので、他府県でも取り入れているAIを使っての乗合タクシー導入は良い考えだと思います
- ✓ 登録会員(身分保障あり)の主要行先へ相乗りができる仕組みがあれば。利用者は無料。会員は利用者の走行距離に応じた対価を行政より受け取ることで有益。アプリで会員の走行情報が視覚的にリアルで分かると柔軟に相乗り車を選ぶことができ、計画的に目的地へ向かえる

4. 交通サービスに期待するアクションに関する声⑦

○新たな技術による交通サービスの維持・向上に関する声②

その他の交通手段

- ✓ 南風原も交通の便を良くして欲しい、また新型ロープウェーに期待しています
- ✓ バスの利用拡大も良いが、別の交通機関(安価な交通費)導入を積極的に検討を行って欲しい
- ✓ 北部にも空港を作る
- ✓ 国の責任で鉄道を建設してほしい。若いころの勤務先の社長が鉄道の必要性について話していた
- ✓ 滞在も課題であるが排ガス規制や、電気自動車の推進等も重要な施策として取り組むべきだと思う
- ✓ 那覇市の渋滞は住居、企業、商業施設が一極集中した結果なので、これ以上は道路整備せず、フランスのようにナンバープレートによる乗り入れ規制を設けてはどうか。試験導入を期待したい
- ✓ 改革とは電車や新技術(自動運転、AIによる交通網制御等)の導入。夢のようですが、そう遠くない未来に実現していると思います
- ✓ 真玉橋にLRT(Light Rail Transit)を通してください
- ✓ ありたい姿を実現するには、皆のライフスタイルや転換や、企業、交通事業者の取り組みも必要だが、交通渋滞対策を行わなければ、転換は不可能である。信号機の赤や青色が渋滞によって任意に変わる信号機の導入など、DXも必須である
- ✓ 主要幹線における鉄軌道の導入、主要駅(バス停)への大型駐車場の設置、中高生への自転車通学の促進、ローカル路線バスの定期運航等により、自家用車の利用低減が見込めると思います

○本事業の取組、手法、行政全般に関する意見など

- ✓ 皆悩んでいることは同じだとわかった。なんとか解決してすみやすい沖縄県にしたいと思った
- ✓ 住民、観光客の双方が自家用車、レンタカー等の移動手段の必要性および利便性を挙げつつ、経済的負担、渋滞、環境への影響などの懸念も同時に持っていることが読み取れました。これら期待と不安の意見の矛盾の解決を図ることは沖縄にとって非常に大きなメリットになると思います
- ✓ 行政の人が話を聞いてくれるのがうれしい
- ✓ 集まった意見はすべて必要なことだと思います。すべてを行うことは難しいと思いますが、ぜひ実現してほしいです
- ✓ 子供や高齢者の声を、親や働く世代に伝えていくべき(特に母親など子育て世代)
- ✓ 離島の交通に対する策がない。船・空についてはどう考えていくのか気になる
- ✓ 交通弱者に対する配慮を感じることができなかった。未成年や大学生たちも除外されている気がする。主体がよくわからない
- ✓ 全ての対応策において、具体的な対応策に欠けて抽象的な表現が多いのが気になる、漠然としていてよくわからない
- ✓ 事前資料に誘導され、意図された回答になっている